



照丸と篠山東雲高3年生の生徒ら。
今年で第104回という歴史ある畜
産共進会に挑む。丹波篠山市福住

高い肥育度評価 ■ 毛並みピカピカ

篠山東雲高育ち 牛が品評会へ

丹波篠山市にある県立篠山東雲高で肥育されている肉牛が、但馬牛の品質を競う県畜産共進会に出場する。畜産を生業としている人たちがせめぎ合う舞台に、高校生が挑む。

出場するのは同校で育てられている2歳の「照丸」。共進会には農業大学校と高校の出場枠が一つあり、照丸は9月9日の予選会で選ばれた。肥育度の高さが評価されたという。

アグリサービス類型の5人の3年生を中心に、えさの量の調整など計画を立てては牛の状態に合わせて修正する作業を繰り返した。

2歳の「照丸」
27日に出場

手綱を引いて散歩させ、毛並みはブラッシングでピカピカに保ってきた。積み重ねが10年ぶりの出場につながった。27日に淡路市である共進会では体高や体重の測定、見栄えの審査を経て受賞牛が決まる。

当日は審査後に競りがあり、落札されると照丸とはその日にお別れとなる可能性もある。中心メンバーの一人、さんは「別れは寂しいけど、上位を目指せるよう残りの日々は今まで以上に気を配りたい」と話している。

2022年10月22日

朝日新聞